

農業・食品産業競争力強化支援事業に関する事業評価シート

【事業名：異常気象対応型園芸産地強化事業】

No.	都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象品目	受益農家戸数		事業費(円)	成果目標の達成状況										取組内容	自己評価	地方農政局長等の意見	備考		
								平成		H22年度			成果目標(H25年度)			事業の成果(H25年度)						達成率 (③-①)/(②-①) (単位%)	
								うち国費(円)	10a当たり平均出荷量(単位t)	作付面積(単位ha)	10a当たり平均出荷量①(単位t)	取組面積(単位ha)	10a当たり平均出荷量②(単位t)	増加率(単位%)	取組面積(単位ha)	10a当たり平均出荷量③(単位t)	増加率(単位%)						
1	高知県	高知市	高知市農業協同組合園芸部	イチゴ	18	0	1,040,943	832,500	3.24	3.7	2.92	3.7	3.49	19.5%	2.9	3.72	27.4%	140.4%	・種子苗の病害虫防除資材 ・被覆資材 ・日射抑制資材	達成率140.4%と、目標達成することができた。			
2	高知県	高知市	高知市農業協同組合園芸部	小ネギ	12	0	919,080	800,000	3.84	3.2	3.42	3.2	3.84	12.3%	3.1	3.88	13.5%	109.5%	・土壌環境改善資材	達成率109.5%と、目標達成することができた。			
3	広島県	三原市	三原農業協同組合	みかん	428	0	59,132,241	55,850,000	2.6	223.4	1.1	223.4	2.6	136.4%	192.9	2.7	145.5%	106.7%	・土壌環境改善資材	達成率106.7%と、目標達成することができた。			
4	広島県	呉市	広島ゆたか農業協同組合	かんきつ	766	0	123,812,874	117,801,590	2.8	471.0	1.5	471.0	2.8	86.7%	401.0	2.7	80.0%	92.3%	・土壌環境改善資材 ・樹体の維持管理資材	事業の実施により、緑化の促進、葉数の増加等、樹勢回復効果が認められたものの、24年2月、25年1~2月の低温の影響による樹勢の低下、24年4月の暴風雨による落葉の発生などで樹体の回復が遅れ生産量が伸び悩んだため、目標達成に至らなかった。今後は、適期適量施肥を重点として、基本管理指導を十分に行い、成果目標を目指す。	事業の実施により、樹体も回復し収穫量も上昇してきたものの、低温などの影響により樹体の回復が遅れ生産量が伸び悩んだため、成果目標の達成率は92.3%と目標達成に至らなかった。このため、事業実施主体として、適期適量施肥を重点とした基本管理指導を十分に行い、成果目標を目指すこととしている。	したがって、引き続き取組状況を確認し、必要に応じて担当原課である園芸特産課において適切な指導を行う。	
5	高知県	土佐市	土佐市農協園芸部青ねぎ部会	青ねぎ	5	0	662,259	575,000	1.9	2.9	1.3	2.3	2.0	53.8%	2.3	1.4	7.7%	14.3%	・被覆資材 ・かん水用資材 ・日射抑制等資材	事業導入資材の活用により猛暑による減収を防ぐとともに、冬季の保温対策等、平均出荷量の向上に向けた取組を行ったが、25年度は、4~9月の平均気温が高く、べと病が多発したことから、目標が達成できなかった。今後は、マルチによる降雨対策や講習会等の開催による防除徹底等、病対策を徹底するとともに、マルチや防虫ネットの新資材の導入試験を行うなど、気象変動に対応できる取組を強化し、目標の達成を目指す。	事業導入資材の活用により猛暑による減収は抑制されたものの、春先からの高温によりべと病が多発したため、成果目標の達成率は14.3%と目標達成に至らなかった。このため、事業主体では、べと病防除の徹底や気象変動に対応するための新資材(マルチ・防虫ネット等)導入試験等が行われているところである。	したがって、引き続き取組状況を確認し、必要に応じて担当原課である園芸特産課において適切な指導を行う。	
6	鳥根県	出雲市	いずも農業協同組合青ネギ部会	ねぎ	20	0	1,152,060	650,000	3.97	2.6	3.29	2.6	4.00	21.6%	2.6	2.85	-13.4%	-62.0%	・土壌環境改善資材	土壌消毒の徹底により、根腐萎凋病や雑草被害は減少した。また、23年に多発した冬季の葉先枯れについても、減少傾向にある。しかし、25年度は、萎凋病発生圃地の多発したため、目標達成が出来なかった。今後は、萎凋病発生圃地におけるクロピクリン錠剤による土壌消毒の実施、季節に応じた品種の検討や講習会等による時期に合った栽培方法の徹底等を図り、目標達成を目指す。	土壌消毒剤の導入により、夏季の病害虫等の被害は減少したものの、萎凋病の多発や、ハウスイロ枯れ等の減少により、成果目標の達成率は62.0%と目標達成に至らなかった。事業主体では、圃地状況に応じた土壌消毒剤の設定や気象変動に強い生産体制の強化の取組が行われているところである。	したがって、引き続き取組状況を確認し、必要に応じて担当原課である園芸特産課において適切な指導を行う。	